

東部保健所 別府地域(別府市・杵築市・日出町)感染症情報

令和6年第19週(5月6日～5月12日)

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

別府地域ではA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の報告数が増加しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、高熱・咽頭痛・嘔吐を主症状とする細菌性の感染症です。2～5日の潜伏期間の後、38度以上の発熱、咽頭痛、リンパ節の腫れ、嘔吐などが見られます。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行することがあります。排出された細菌が手などを介し、口に入ることによって感染します(経口感染)。予防策としては、衛生管理の基本である手洗い、うがいの励行が非常に重要かつ有効です。受診して薬を処方された場合は最後まで飲み切りましょう。

・手足口病について

別府地域では手足口病患者の報告数が警報レベルにあります。

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られます。感染は、排出されたウイルスが手を介して口に入ることによるもの(経口感染)、せきやくしゃみによるもの(飛沫感染)や接触感染で起こり、潜伏期は3～4日程度です。

有効な抗ウイルス剤などはありませんので、手洗いの励行などの予防が重要です。口の中の症状が強くなったときには、水分不足にならないように注意が必要です。特に、乳幼児のいる家庭は十分注意して下さい。

(第19週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
0歳	0.10		1.33	0.17		0.83		1.67		0.33	0.67						
1～3歳			2.33	0.50	0.50	3.00		4.00		0.17	1.00	0.17					
4～6歳	0.10		0.33	0.17	3.00	3.50		0.17									
7～9歳					2.17	1.83											
10～14歳	0.10	0.50			1.17	1.67											
15～19歳		0.30															
20歳以上	0.10	0.60				0.33											
今週	0.40	1.40	4.00	0.83	6.83	11.17		5.83		0.50	1.67	0.17					
70歳以上(再掲)		0.10															
先週	0.10	1.40	4.83	1.33	4.83	9.33		5.83			0.67						

指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。
(定点医療機関数:インフルエンザ/COVID-19定点 10、小児科定点 6)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

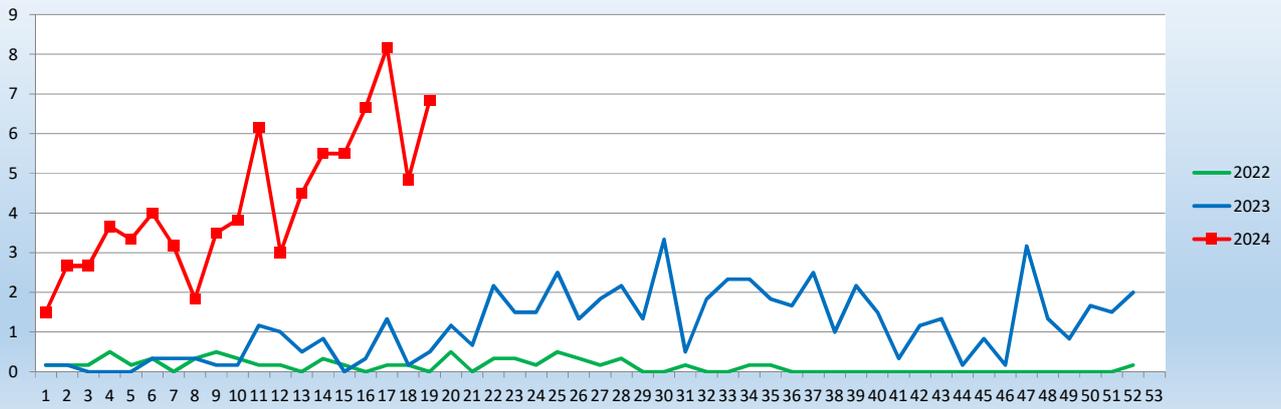
	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10
咽頭結膜熱	3.0	1.0	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-
感染性胃腸炎	20.0	12.0	-
水痘	2.0	1.0	1
手足口病	5.0	2.0	-
伝染性紅斑	2.0	1.0	-
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8.0	4.0	-

警報レベル:大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。

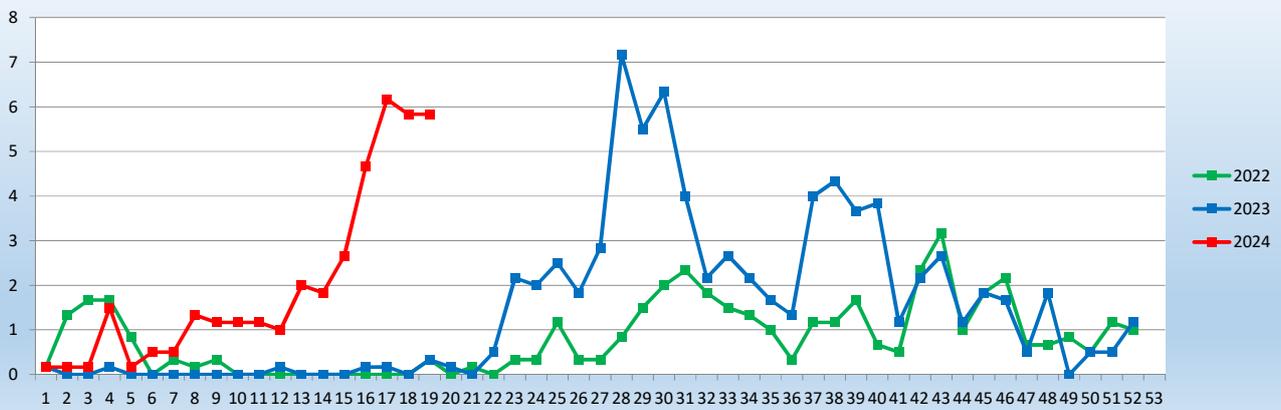
注意報レベル:流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

過去3年間の発生動向(別府地域)

定点当たり報告数 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



定点当たり報告数 手足口病



定点当たり報告数 RSウイルス感染症

